

■ はじめに

新型コロナウイルス感染症対策のための臨時休業等に伴い、登校できない児童生徒の学習を支援するため、主たる教材である教科書を使用した予習のモデル例を教科ごとに作成しました。地域の状況や児童生徒の実態に応じて予習を授業に生かす際の参考としてください。

また、WEBを活用して、文部科学省ホームページ「子供の学び応援サイト」に掲載されている教材・動画を使用した学習や、臨時休業中に特別編成で放送している「NHK Eテレ」等のテレビ放送を活用した学習など、教科書と併用できる教材・動画等を組み合わせて学習していくことも効果的です。

WEB

「子供の学び応援サイト」を見てみよう!



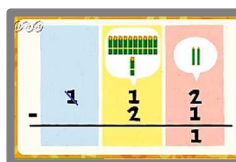
このサイトでは、学校種等・教科等ごとに、自宅などで活用できる教材や工夫例等を紹介しています。

また、「子供の学び応援コンテンツリンク集」「わくわくサイエンスリンク集」では、家庭での学習に役立つ動画サイトやデジタルコンテンツを掲載しており、楽しく学ぶことができます。

なお、今後も、コンテンツは随時追加される予定です。



探していたら、こんなサイトが見つかったわ。学年別の動画があるのね。



小学生には、動画をメモしながら見て、内容を簡単にまとめ、感想を書かせてみよう。
中学生には、調べたことをまとめて誰かに伝えられるように取り組ませてみよう。

1 教科書を使用した予習（単元を見通して）

- (1) 各単元・教材等で示している目標を踏まえて教材文等を読み、教科書の課題に取り組む。
- ・単元・教材等で示している目標を確認する。
 - ・目標を踏まえて本文等を読む。
 - ・教科書の課題に取り組み、ノート等にまとめる。（音読の課題の場合は音読する）

※課題によっては、「話すこと・聞くこと」領域の単元等、相手が必要となるものもあるが、学習活動の内容に沿って、例えば「～について話し合おう」は「～についての自分の考えをノートに書こう」や、「～について発表しよう」は「～についての発表原稿をノートに書こう」等に置き換えることも可能。
※小学校1年生の教科書には具体的な目標や課題が示されていないため、教材文をよく読むことや音読すること、硬筆の書写の練習等を指示する。

- (2) 新出漢字を覚えたり、語彙を豊かにしたりする。（小学校2年生以上）
- ・字形や筆順、丁寧に書くことなどを意識しながら、ノートや書き込み式ドリル等で漢字練習をする。
 - ・（学年や実態に応じて）漢和辞典・漢字辞典等を使用し、漢字の構成（偏、旁等）や熟語等を調べ、ノートにまとめる。また、その漢字（熟語）を使用した短文を考え、ノートに書く。
 - ・意味が分からない語句を国語辞典で調べるとともに、対義語や類義語をノートにまとめる。また、その語句を使用した短文を考え、ノートに書く。

※教科書によっては、意味を調べたり、短文をつくったり、類義語・対義語を挙げたり等の課題を示しているのので、それらに取り組みさせることもできる。

- (3) 書写の課題に取り組む。
- ・教科書で示している内容を踏まえ、各課題に取り組む。

2 予習を生かした授業づくり

- ・（児童生徒が教材文等を読んでいることを前提として）授業の構成や発問等を工夫する。
- ・ノートにまとめた考え等を、形態を工夫しながら意見を交流させる活動に重点化した授業を行う。
- ・作成した短文や類義語・対義語等を紹介し合う活動や、内容が適切か皆で意見を交流し合う活動に重点化した授業を行う。
- ・音読が必要な教材については、斉読させたり、読み方の工夫を生かして音読させたりする。
- ・「話すこと・聞くこと」領域等の単元・教材等について、作成した原稿を基に実際に話したり聞いたりする学習活動に重点化した授業を行う。
- ・書写の授業において、児童生徒が家庭で取り組んだ課題を反映させた学習課題を設定する。

3 その他の家庭学習例

- ・教科書教材に関連した複数冊の読書とともに、感想文や紹介文を書かせる。（分量や条件等は学年段階や実態に応じて設定する）
- ・教科書によってはQRコードが掲載されているので、インターネット環境等に応じて視聴させる。
- ・学年や実態に応じて、日記や随筆、意見文等を書かせたり、詩歌や物語を創作させたりする。（各種団体等が主催する作文コンクールや読書感想文コンクール等に取り組みさせる）
- ・（これまで指導されていることを前提として）新聞を使用した課題に取り組みさせる。（条件等に従って選んだ記事を要約する、感想や意見をまとめる、複数の新聞の情報を比較して意見を述べる等）

※そのほか、これまで指導してきた学習活動の中で家庭でも取り組める課題があれば、それを基にした発展的な課題として取り組みさせることも考えられる。

1 教科書を使用した予習（1単位時間分の学習を見通して）

- (1) 教科書会社が公開しているワークシート、確認小テストに取り組む。
- (2) 1単位時間ごとの教科書の本文や重要語句等をノートに視写する。
- (3) 地図やグラフ等の資料から分かることについて、ノートに予想を書く。
- (4) 1単位時間の取組終了後、「つかむ」、「調べる」、「学習問題」（小学校）、「確認」（中学校）コーナーについて、ノートに予想を書く。
- (5) 単元の取組終了後、新たな課題「問い」やもっと追究してみたいと思うことなどについて、ノートに書き出し、予想を書く。
- (6) 疑問に思ったことをノートにメモしたり、教科書等で調べたりする。

2 予習を生かした授業づくり

- (1) 課題としていたワークシートや確認小テスト、ノートの取組状況を確認する。
- (2) 予習状況の見取りから、地図やグラフ等の資料の読み取り、重要語句や疑問に思うことなどについて説明する時間を多くするような授業展開を工夫する。
- (3) 予習で行った地図やグラフ等の資料から分かることを的確に見取り、「確かめる」場面に重点化した授業を行う。
(例) 「つかむ」、「調べる」、「学習問題」、「確認」コーナー、単元を見通した「問い」などについて、予想を発表させ、確認する。
- (4) 新たな課題「問い」やもっと追究してみたいと思うことを発表させる。

3 その他の家庭学習例

- (1) 新聞やニュースを見て、気付いたことをノートにまとめる。
- (2) 児童生徒向けの様々なホームページを活用したり、動画のコンテンツを視聴したりして分かったことをノートに書く。
- (3) 単元指導計画や本時の指導を見直すなど、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための学習過程を構想する。
- (4) 中学校においては、教師が「単元を見通した課題（問い）」を設定し、生徒がワークシートやノートなどへの予習を行った後、教師が設定した「単元を見通した課題（問い）」について、自分の言葉でまとめてみる活動も考えられる。

1 教科書を使用した予習（1単位時間分の学習を見通して）

- (1) 学習する単元に関する既習事項の問題を解く。
 - ・単元のはじめに設定されている既習事項を振り返る問題を解く。
 - ・配付されたレディネステストの問題を解く。
 - ・分からない問題は、当該学年の教科書等を基に復習する。
- (2) 教科書を読んで、1単位時間の課題を設定する。
 - ・教科書に示されている課題を書き写してもよい。
- (3) はじめの問題を読む。
 - ・問題文や表などは、必要に応じて書き写す。
- (4) 既習事項を使って自分の考え方をノートに書く。
 - ・配付されたワークシートを活用してもよい。
- (5) 教科書に示されている解き方をノートに書き写す。
 - ・自分の考えとの比較し、気付いたことについてノートにメモをする。
 - ・新しく出てきた用語についてまとめる。
- (6) 学習したことの振り返りを行う。
 - ・教科書を読んだり、問題を解いたりして分かったことや分からなかったことをまとめる。
 - ・課題に対する結果やつまずき、新たな疑問等をまとめる。

※上記の学習内容の一部を取り上げた内容としたり、ワークシートの作成、教科書のコピーを配布したりするなど、発達の段階に応じた工夫をする。

2 予習を生かした授業づくり

- (1) 既習事項の振り返りやレディネステストの結果から児童生徒の単元に関わる既習事項の定着について把握し、レディネスを整える。
- (2) レディネステストで把握した児童生徒の実態に応じて、重点化すべき単元や授業展開を工夫する。
- (3) 家庭学習で自力解決した児童生徒の考えやその過程で生まれた疑問等を交流させる場を重点化した授業を行う。
- (4) 適用問題を通して児童生徒の理解や定着を確実に見取り、次の指導に生かす。

3 その他の家庭学習例

- (1) 教科書に示されている手順に沿って練習・作業する。
 - ・数字や単位等の書き方
 - ・数図ブロックや数え棒を使った作業
 - ・ものさしや分度器、コンパス等の使い方
 - ・立体作りや作図等の作業
 - ・模型を活用した実験
- (2) 練習・作業・実験等の後に感想等を書かせる。
 - ・ノートやワークシートにまとめる。

1 教科書を使用した予習（単元を見通して）

- (1) 教科書の本文や語句等をノートに書き写し、「なぜ？どうして？」と思った疑問や、もっと知りたいと思ったことをノートに書き留める。
- (2) 単元の予習を通して学習したことを確認するため、教科書にある「単元末問題」に挑戦し、分かったことと分からなかったことを整理する。(中学校)
- (3) 教科書にある「しりょう」(小学校)、「科学の窓」(中学校)のマークがついた読み物や、資料集などを読み、興味をもったことなどをさらに深く調べてノートにまとめる。

2 予習を生かした授業づくり

- (1) その単元で何を学ぶかなどを簡潔にまとめた単元の全体構成などを提示する。
- (2) 教科書にある語句や、図やグラフなどの資料から読み取ったことを交流させる場面を設定し、児童生徒の理解を深めたり気づきを促したりすることができるような授業展開を工夫する。
- (3) 家庭で行った観察や調べ学習等を発表する場と、疑問に思ったことや発見したことを共有する場面を設定し、課題意識をもって授業に臨むことができるよう、授業展開を工夫する。
- (4) 課題プリント、家庭学習ノート、レポート及び自由研究などの取組状況を確認し、形成的評価を行って学習内容の定着状況を把握し、次の指導へ生かす。

3 その他の家庭学習例

- (1) 身近にある自然現象について、不思議に思ったことや疑問に思ったことなどを記録しておく。
 - ・ 単元のはじめに設定されている既習事項を振り返る問題を解く。
 - ・ 家の周りの植物を保護者と一緒に観察し、教科書にある観察やスケッチの仕方を参考にして、ノートにスケッチしたり写真に収めたりするなどして、その植物の特徴や発見したことなどを記録する。
 - ・ 天気予報を見て、予報と実際の天気、気象要素を記録・観察することで、天気の変化に興味をもたせ、天気図や実際の空の様子から天気の予想を立てさせる。
 - ・ 同じ時刻・方位の夜空を見て、月や星の見え方の違いを記録する。
- (2) 教科書にある、「やってみよう自由研究」(小学校)、「自由研究」(中学校)のページを参考にしながら、自分が興味をもち、調べたいと思ったことについてテーマを決めて、自由研究に取り組む。

1 教科書を使用した予習（単元を見通して）

教師は教科書等の音声データを児童生徒に配布し、児童生徒は英語の音声を活用して「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」、「書くこと」に取り組む。

※Let's Try! 音声データリンク一覧

【https://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1387503_00001.htm】

- (1) 音声データを活用し、教科書等の文字や語句、本文等を聞いたり、声に出したり（話したり）する。
- (2) 音声で十分慣れ親しんだ後、教科書等を参考にしながら、ワークシート等に文字を書いたり、語句を書き写したりする。
- (3) 例文を参考に自分の考えや気持ちを声に出したり（話したり）、書いたりする。
- (4) 自分の考えや気持ちを声に出したり（話したり）、書いたりする上で、うまく表現できなかった内容をノート等書き出しておく。
- (5) 教科書等の本文を聞いたり、読んだりした上で、その内容理解のための問を解く。（中学校）

2 予習を生かした授業づくり

- (1) 取組状況や定着状況を的確に見取り、「聞くこと」、「読むこと」及び「帯活動」の回数・時間を調整し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、児童生徒が自分の考えや気持ちを伝え合う時間を十分確保する。
- (2) ワークシート等書いた成果物を活用して自分の考えや気持ちを伝え合ったり発表したりすることができるよう、授業展開を工夫する。
- (3) 児童生徒が言いたくても言えなかった（書きたくても書けなかった）内容を取り上げ、全体で課題化（共有）し、児童生徒が自分の考えや気持ちを広げたり深めたりすることができるようにする。

3 その他の家庭学習例

- (1) 青森県版中学校英単語集 Version V を活用し、単語を練習したり、例文の意味を考えたり、英作文に取り組んだりする。
- (2) 新学習指導要領対応中学校外国語教材「Bridge」(文部科学省作成)を活用して、英語を読んだり、その内容理解のための問を解いたりする。

※新学習指導要領対応 中学校外国語教材 Bridge 音声データ

各トピック右頁上【QRコード】又は【<https://www.english-jhs.com/>】

- (3) 実用英語技能検定試験の過去問題に取り組む。